



花の都しずおか

スプレーギク



キク科に属すスプレーギクは、直径3cm〜6cmの花を小枝の先に多数つける可憐な花だ。主に仏花として親しまれているが、近年では洋花のようにフラワーアレンジメントなどに用いられるケースも増えている。静岡県の出荷量は、全国7位。品種によって色や形などが大きく異なり、「グリーンドリームナース」「古都の夢」など、県内で育成され、品種登録されたオリジナル品種もある。スプレーギクの栽培は西部地域を中心に

われており、浜松市だけでも100〜120品種が栽培されている。スプレーギクは、品種を変えながら1つのハウスで年に3回出荷できる。しかし、栽培は病害虫との戦いになるといふ。「品種が多いため、病害虫の対策もさまざま。新種もどんどん発表されるので、いつも試行錯誤の連続です。それだけに納得のいく花が咲いたときは嬉しいですね」と語るのは浜松市のスプレーギク部会と品種部副部長を務める鈴木健次さんだ。

スプレーギクは日持ちの良いことで知られている。切り花にしても冬なら約1カ月、夏でも1〜2週間という日持ちの良さは、確かに仏花に適している。でも、多彩なバリエーションに加えて、清涼感のある上品な香りも大きな魅力です。これからは仏花だけでなく、日常の暮らしを彩るホームユースの花としてもアピールしていきたい」と鈴木さん。その言葉には「静岡県に花のある生活を根付かせたい」という熱い思いがふれている。

お問い合わせ/JAとびあ浜松 花き営農センター
電話：053-439-8100



古都の夢



グリーンドリームナース



鈴木健次さんはセイヒラリー、レミダス、パニティなど毎年20種類程度のスプレーギクを育てている。



鈴木さんは14年前に脱サラして収益性の高いスプレーギクの栽培を始めた。

花の都スポット

雁公園 (かりがねこうえん)

富士市

静岡県富士市松岡字堤外1866-1

0545-63-5210 (岩松まちづくりセンター)

見ごろ：10月上旬



江戸時代、暴れ川として恐れられた富士川から周囲の田畑などを守るために造られた「雁堤(かりがねづつみ)」。その堤に沿って毎秋コスモスの花が咲き誇る。花は地域の住民によって管理され、約370鉢のプランターが全長約2kmに渡って続く。風に吹かれながら富士山を眺めるウォーキングスポットとしてもおすすめ。

